

# 令和4年度 ゼミ学生等地域貢献推進事業 助成対象研究課題一覧

課題提案者	地域課題（指定課題）＝自由課題より優先して採択されます
御殿場市	新型コロナウイルス感染症の市内経済への影響調査及び持続的地域振興策研究
御殿場市	コロナ禍における御殿場市馬術・スポーツセンターの経済波及効果
小山町	スポーツツーリズムの促進による関係人口の拡大と情報発信
小山町	SDGs 達成に向けた「小山町版脱炭素型ライフスタイル」の普及啓発について
三島市	在住外国人に対する医療受診・相談時における円滑なコミュニケーション研究
三島市	保幼小連携の基盤づくりプロジェクト
沼津市	市内ウォーキング・サイクリングコースにおける運動効果
沼津市	ミレニアル世代及びZ世代に向けた観光需要喚起策
富士市	テレワークを活用した魅力あるワーケーションプログラムの作成
富士市	田子の浦港プロムナードゾーンにおける“つなぐ”にぎわいづくり
富士宮市	自転車を活用した健康づくり
静岡市	GISを活用した静岡市の生物多様性保全の基礎調査
静岡市	井川地区における特産品のパッケージ開発
藤枝市	観光を通じて藤枝茶を未来へ繋ぐ！お茶を活用した体験型観光商品の企画
島田市	島田市の御利益スポットを連携・周遊させる手法のブラッシュアップ・改善提案
島田市	茶の実油を使用した建設資材の調査研究
川根本町	古文書整理 地域資源としての古文書を考える
菊川市	日本人にも外国人にも住みやすいまちの魅力について
掛川市	掛川城・高天神城跡・横須賀城跡を効果的に連携・周遊させるための新たな提案
掛川市	教育体験プログラムを活用した教育旅行の可能性について
磐田市	桶ヶ谷沼における自然環境保全活動について
磐田市	学生を中心とした若年層の文化会館の利用について
浜松市	浜松市北区引佐町久留女木地区における地域づくりの方策の研究
浜松市	春野町における民間口承文化財（昔話）の調査・記録・公開による地域文化の保存と継承
静岡県	東静岡駅周辺地区における駅南口県有地活用方策の研究
静岡県	「ヤングケアラー」に関する高校生・大学生等による当事者支援活動（ピアサポート）の実態調査研究
静岡県舞台芸術センター	SPACの人材育成事業の成果分析
課題提案者	自由課題
御殿場市	生物多様性保全に関する調査・研究
三島市	長期宿泊型研修における大学との連携及び教育的効果の検証
三島市	三島市立箱根の里の有する自然環境的な魅力、立地や施設的な特性、改善点を考える
富士市	まちの魅力を発信する仕掛け
富士市	紙世代もデジタル世代もみんなが市の広報紙を読める体制づくり
富士市	富士川流域における水生生物の生態系調査
富士市	大型ごみ処理の有料化の実態調査及び導入手法の提言
富士市	松野地区における特定外来生物アライグマの生息分布調査
掛川市	大学生ガイドとめぐる掛川市内観光の提案について
掛川市	粟ヶ岳をトレーニング等に活用するための提案について
掛川市	掛川市南部旅行者の市内陸部への誘客について
掛川市	歴史的・文化的施設の観光面への有効活用について
磐田市	廃校を活用した敷地地区の地域再生デザイン構想の具現化
静岡県	ふじっぴーに金の卵を生ませる方法
静岡県	効果的なクリーン宣言（仮称）の発出方法と戦略的なPR方法について
静岡県	道路や河川除草で発生する刈草の有効活用と地域資源回収サイクルの可能性について
静岡県	浄化槽法定検査受検率向上にむけた新たな取組について
静岡県	港湾浚渫物の園芸等に対する培養土等としての有効利用について
静岡県	アフターコロナにおける若年層に対する献血の普及啓発手法への提案
静岡県	安心して子どもを産み育てたいと感じる子育て支援のあり方
静岡県	身近な自然の生物多様性の魅力再発見 ～OECM（次世代型生物多様性保全区域）の視点で自然環境の保全と利用の両立を考える～

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	御殿場市	課題区分	指定課題
課題タイトル	新型コロナウイルス感染症の市内経済への影響調査及び持続的・地域振興策研究		

課題の概要(背景や理由等)	令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の流行は市内経済活動に大きな影響をもたらしており、影響の長期化が懸念されている。令和3年度に実施した市内商業及び観光業に与えた影響の実態調査をもとに、ウィズコロナ・アフターコロナ時代における課題を分析し解決策等を考えることで、持続性のある地域振興策を引き続き検討する。
希望する調査研究内容や期待すること	令和3年度の調査研究を継続し、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたと思われる業種(飲食・宿泊・観光業等)や駅前商店街、中小企業事業主へのアンケート・インタビュー調査及び市を訪れた観光客へのアンケート等を基礎に、市内経済の実態把握と課題解決策の検討を行い、御殿場市に合った持続的な地域振興策の考察や具体的な施策案をまとめる。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	御殿場市商工会 御殿場市観光協会 (必要に応じて商店街、店舗、観光客 等)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体・個人・商店等の紹介、その他必要資料の提供

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡英和学院大学	学部等	人間社会学部
ゼミ・団体名(担当教員)	毛利ゼミ	連絡先 E-mail	<a href="tel:054-261-9201">054-261-9201</a> <a href="mailto:mohri@shizuoka-eiwa.ac.jp">mohri@shizuoka-eiwa.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	商工振興課
電話番号	0550-82-4683
E-mail	<a href="mailto:shoukou@city.gotemba.lg.jp">shoukou@city.gotemba.lg.jp</a>
4年度担当者	北村 和也

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	御殿場市	課題区分	指定課題
課題タイトル	コロナ禍における御殿場市馬術・スポーツセンターの経済波及効果		

課題の概要(背景や理由等)	御殿場市馬術・スポーツセンターの市内・県内における経済波及効果を調査したいと考えます。令和3年度は試験的に一つの大会で調査を行いました。市単独では、その情報収集・整理に限界があるため、今回、調査研究を希望をしました。
希望する調査研究内容や期待すること	・御殿場市馬術・スポーツセンターは年間を通して、全国規模の大会が複数回開催されるなど、ツーリズム性の高い施設となっています。また、その利用者も学生から一般の社会人、観客となる保護者、大会役員など幅広い属性の利用者がいることから、年間を通して、調査を行い、具体的な経済波及効果を算定したいと考えます。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・施設の指定管理者である御殿場総合サービスグループ(「御殿場総合サービス株式会社」および「御殿場市スポーツ協会」で構成。) ・大会主催者である日本馬術連盟、静岡県馬術連盟等。
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・市役所からの情報提供(施設の利用日、団体、規模など。) ・会議室の貸与(市役所庁舎及び馬術・スポーツセンター施設内。) ・日本馬術連盟、静岡県馬術連盟等の利用団体の紹介も可能です。

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡産業大学	学部等	経営学部
ゼミ・団体名(担当教員)	牧野ゼミ(牧野教授)	連絡先 E-mail	<a href="mailto:makino@ssu.ac.jp">makino@ssu.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	市民スポーツ課 市民スポーツスタッフ
電話番号	0550-82-4135
E-mail	<a href="mailto:sports@city.gotemba.lg.jp">sports@city.gotemba.lg.jp</a>
4年度担当者	杉山

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	小山町	課題区分	指定課題
課題タイトル	スポーツツーリズムの促進による関係人口の拡大と情報発信		

課題の概要(背景や理由等)	東京2020大会の開催会場として、期待された誘客・経済効果・情報発信等は果たせなかったが、レガシー継承の責務を負う町として、スポーツツーリズムの推進が更に求められている。 富士山麓の自然や地理特性、2020大会会場となったFSW等を活かし、関係人口の拡大、地域の活性化やイメージの向上を図るとともに、定住意欲の獲得にも繋がる「観光スポーツ交流の促進」が急務である。
希望する調査研究内容や期待すること	・ジュニア&学生スポーツ部、市民スポーツサークル等の合宿意向アンケート ・既存観光インフラにおける調査・分析(質・量 双方の対応力) ・上記に基づくニーズ&サプライのマッチング提案 ほか
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・生涯学習課、商工振興課、人口政策推進課 ・小山町観光協会 ・小山町商工会 ・小山町自転車活用推進会議 ・小山町モータースポーツ協会の会 ほか
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介 調査にかかる情報の提供及び収集協力 観光施設等との調整、フィールドワーク補助 ほか

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡県立大学	学部等	経営情報学部
ゼミ・団体名(担当教員)	大久保あかね観光研究室	連絡先 E-mail	<a href="mailto:akane@u-shizuoka-ken.ac.jp">akane@u-shizuoka-ken.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	商工観光課
電話番号	0550-76-6114
E-mail	<a href="mailto:kankou@fuji-oyama.jp">kankou@fuji-oyama.jp</a>
4年度担当者	観光スポーツ交流課

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	小山町	課題区分	指定課題
課題タイトル	SDGs達成に向けた「小山町版脱炭素型ライフスタイル」の普及啓発について		

課題の概要(背景や理由等)	小山町では、再生可能エネルギーを活用した産業整備事業など、持続可能な社会に向けた取組を進めており、町民生活に関しても、デマンドバス(乗合)の利用促進、ごみ排出量の削減、太陽光発電システム設置の推進など、持続可能な脱炭素型ライフスタイルへの転換を推進している。 しかし、町からの情報発信は勉強的になりがちであり、町民がそれぞれのライフスタイルの中で、脱炭素社会への貢献度を実感し、やりがいを感じつつも楽しみながら取り組めるような、情報発信については不足している。
希望する調査研究内容や期待すること	・「デマンドバス(乗合)を利用した場合」「地元の野菜や果物を食べた場合」など身の回りの行動を変えた際の、CO2削減効果(貢献度)の見える化 ・「貢献度が分かりやすい」「エシカルでおしゃれな生活のヒント」等、前向きに楽しみながらライフスタイルを転換するための情報発信に関する企画・提案 ・誰にでもわかりやすい啓発方法等に関する企画・提案 ※SDGsには様々なテーマがありますが、国立環境研究所等により効果の数値化が進んでいる「CO2削減効果」を本年度のテーマとして選択しました。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・小山町観光協会 ・小山町商工会 ・町内事業者 ・静岡県くらし・環境部 等
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	・データ提供(町民意識調査、デマンドバス利用実績、ごみ排出量 等) ・現地案内 ・関係団体の紹介 ・会議室の貸与 等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	小山町 企画政策課
電話番号	(0550)76-6133
E-mail	<a href="mailto:kikaku@fuji-oyama.jp">kikaku@fuji-oyama.jp</a>
4年度担当者	水澤 諒子

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	三島市役所(三島市国際交流室)	課題区分	指定課題
課題タイトル	在住外国人に対する医療受診・相談時における円滑なコミュニケーション研究		

課題の概要(背景や理由等)	日本で生活する外国人が、医療機関で受診する際に直面する「言葉の壁」について悩みを抱えているという声が多く届いている。常に通訳者を介してコミュニケーションを図るのは現実不可能なので、「やさしい日本語」に置き換え理解してもらう必要がある。 医療現場での受付、診療、会計などで医療従事者が使う表現方法を少しでも見直すことで在住外国人も理解でき、安心して生活してもらうことができるようになるので、保健看護大学と協働で、医療現場への「やさしい日本語」の導入と普及の可能性について調査・研究する。
希望する調査研究内容や期待すること	将来、医療・看護現場で従事することを旨とする大学生に外国人対応として「やさしい日本語」を学んでもらい、同時並行で、実際に市内在住の外国人を相手にシミュレーションを行い、スキルアップを図る。 また、その成果を発表することで、「やさしい日本語」の重要性について広く周知する。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	三島市国際交流協会、三島市在住外国人、姉妹都市ネットワーク、市内外国人住民支援関係団体、国際交流室Facebookグループページ登録者等
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介、広報みしまでの発信、報告会の実施

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	順天堂大学	学部等	保健看護学部
ゼミ・団体名(担当教員)	山本 哲子助教	連絡先 E-mail	<a href="mailto:t.yamamoto.df@juntendo.ac.jp">t.yamamoto.df@juntendo.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	三島市 環境市民部 地域協働・安全課 国際交流室
電話番号	055-983-2645
E-mail	<a href="mailto:kokusai@city.mishima.shizuoka.jp">kokusai@city.mishima.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	国際交流室長 柿島淳

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	三島市	課題区分	指定課題
課題タイトル	保幼小連携の基盤づくりプロジェクト		

課題の概要(背景や理由等)	<p>平成29年に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が改訂され、この3つの要領において、5歳児クラス終了時の状況を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とし、それを小学校と共有することによって保幼小の接続を推進することを改訂のポイントのひとつとしているものの、現在、情報共有等が適切に進んでいるとは言い難い状況にある。</p> <p>しかしながら、子どもの育ちを継続的に見守るためには保幼小の連携が不可欠であると考えており、そのためには連携実施に伴うそれぞれのメリットや真に必要な情報等を明確化する必要性を感じているところである。</p> <p>ついでに、発達理論を元にした子どもの育ちを検証することにより、それぞれが連携に価値を見出し、今後の教育・保育に反映させられるような基盤づくりを行っていきたく考えている。</p> <p>また、学生にとっても、実際の教育・保育現場を知る貴重な機会になると思われるため、生きた学びとなることが想定される。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保幼小連携の基盤づくり</li> <li>・9,10歳節の実態把握アンケート作成</li> <li>・子どもの育ちの継続的な調査</li> <li>・研究活動の効果と課題</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常葉大学保育学部の学生</li> <li>・市内保育園、幼稚園、小学校</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の貸与</li> <li>・ゼミ等が実施する行事やイベント等の保幼小への周知</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	常葉大学	学部等	保育学部
ゼミ・団体名(担当教員)	山本 睦 ゼミ	連絡先 E-mail	<a href="mailto:chikazemi22@gmail.com">chikazemi22@gmail.com</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	子ども保育課 子ども保育係
電話番号	055-983-2611
E-mail	<a href="mailto:kodomo@city.mishima.Shizuoka.Jp">kodomo@city.mishima.Shizuoka.Jp</a>
4年度担当者	勝又 かおり

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	沼津市	課題区分	指定課題
課題タイトル	市内ウォーキング・サイクリングコースにおける運動効果		

課題の概要(背景や理由等)	駿河湾岸防潮堤、狩野川河川敷、沼津アルプス登山道など、市内にある恵まれた自然環境を生かしたウォーキング及びサイクリングコースを踏破・走破した時の消費カロリー等を数値化し公開することで、市民の運動意欲や健康意識の向上を図る。
希望する調査研究内容や期待すること	同上
情報収集や意見交換等で連携する団体等	沼津市 健康づくり課・長寿福祉課 NPO法人 カケルバイク
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	実証実験等への参加

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	産業振興部 ウィズスポーツ課 市民スポーツ係
電話番号	055-934-4875
E-mail	<a href="mailto:sports@city.numazu.lg.jp">sports@city.numazu.lg.jp</a>
4年度担当者	工藤



## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	沼津市	課題区分	指定課題
課題タイトル	ミレニアル世代及びZ世代に向けた観光需要喚起策		

課題の概要(背景や理由等)	長引くコロナ禍により、宿泊や観光施設、飲食などの観光関連事業者は大きな影響を受けており、かつ、新型コロナウイルス感染症の感染状況から、早期に観光需要の回復を見込むことも困難である。このようななか、一般的に観光消費に興味関心が高い中高年層に対しては、令和4年大河ドラマなど、新たなツール等を活用し誘客を推進していく一方で、(観光)消費意欲が比較的薄く、テレビ放送よりもSNSやYouTubeなどの動画配信サービスとの親和性が高い、などと言われている、ミレニアル及びZ世代を対象とした観光需要喚起策について今後検討し、観光消費の活性化を図っていく。
希望する調査研究内容や期待すること	同世代のうち、観光そのものに対し興味関心が高い層、観光に対して興味関心は高くないものの、いわゆる「インスタ映え」するスポットなどに興味関心がある層など、複数のカテゴリーを想定し、同世代に対して広く需要喚起を図ることができる施策の提案。Z世代に当たる学生等の感性を最大限生かした、行政では発想が及ばない「ユニーク」な施策の提案。加えて、「沼津ならでは」の観光資源が積極的に活用されていることが望ましい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	NPO法人沼津観光協会、戸田観光協会、市内観光案内所、(一社)美しい伊豆創造センター、(公社)静岡県観光協会、(一社)富士山浪漫之旅 など
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	上記団体等の紹介、会議室(沼津市役所)の貸与、関連物品の貸与(要相談)

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	日本大学	学部等	国際関係学部
ゼミ・団体名(担当教員)	宍戸ゼミ(宍戸学)	連絡先E-mail	<a href="tel:055-980-0748">055-980-0748</a> <a href="mailto:shishido.manabu@nihon-u.ac.jp">shishido.manabu@nihon-u.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	沼津市役所産業振興部観光戦略課 観光企画係
電話番号	055-934-4747
E-mail	<a href="mailto:kanko@city.numazu.lg.jp">kanko@city.numazu.lg.jp</a>
4年度担当者	観光企画係長 植松和広(予定)

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士市	課題区分	指定課題
課題タイトル	テレワークを活用した魅力あるワーケーションプログラムの作成		

課題の概要(背景や理由等)	富士市は「テレワーク先進都市」の実現を目指し、テレワークに関する様々な施策を令和3年度から展開している。その主要な施策の一つとして、首都圏からの企業やワーカーの流入があり、テレワークを活用した仕事と滞在中の余暇を組み合わせたワーケーションプログラムを提供していきたい。
希望する調査研究内容や期待すること	首都圏の企業やワーカーから見て富士市内の資源を活用した魅力あるワーケーションプログラム案を複数提案していただきたい。 ただし、プログラム案作成にあたり、マーケティングのうえ、エビデンスに基づくものであると、なおありがたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士市内のコワーキングスペース運営事業者</li> <li>・富士市中小企業等振興会議(テレワーク推進部会)</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の貸与、市内企業の紹介</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	産業経済部産業政策課
電話番号	0545-55-2779
E-mail	<a href="mailto:matsuba_takeaki@sa.city.fuji.shizuoka.jp">matsuba_takeaki@sa.city.fuji.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	松葉 剛哲

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士市	課題区分	指定課題
課題タイトル	田子の浦港プロムナードゾーンにおける“つなぐ”にぎわいづくり		

課題の概要(背景や理由等)	県内2番目の取扱貨物量を誇る田子の浦港では、平成30年に改訂された「田子の浦港振興ビジョン」に基づき、関係者連携のもと防災対策とにぎわいづくりに取り組んでいる。 にぎわいづくりにおいては、「田子の浦港漁協食堂」と「ふじのくに田子の浦みなと公園」を結ぶ「プロムナードゾーン」にて、多くの人が行き来し、楽しめるにぎわい空間を創出することとしており、両施設を“つなぐ”にぎわいづくりに資する沿道空間の提案を希望する。
希望する調査研究内容や期待すること	田子の浦港漁協食堂とふじのくに田子の浦みなと公園を結ぶプロムナードゾーンにおいて、“つなぐ”にぎわいづくりに資する沿道空間の提案 ・当エリアの一体性を向上し、人の流れを促す歩道空間デザイン（舗装、サイン、グラウンドライト等） ・風景を眺めながら一休みできるストリートファニチャー ・沿道空間に設置する新たなシンボルモニュメント ・にぎわいを目的とした沿道空間の演出企画（イルミネーション等） など
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・富士市産業政策課港湾振興室（田子の浦港振興ビジョン推進協議会事務局） ・田子の浦港振興ビジョン にぎわいワーキンググループ （市、県田子の浦港管理事務所、漁協、商工会議所、観光交流ビューロー、港湾関係企業、地元住民等で構成）など
ゼミ等に対して可能な支援（会議室の貸与、関連団体の紹介等）	・現場案内対応 ・会議室の貸与 ・関連団体紹介やヒアリング、報告の場の調整 ・トライアル企画を実施する場合の支援など

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。（ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません）

大学		学部等	
ゼミ・団体名（担当教員）		連絡先 E-mail	

連絡先（課題内容を照会することがあります）

所属（課、係）	富士市産業政策課港湾振興室
電話番号	0545-55-2816
E-mail	<a href="mailto:sa-sangyou@div.city.fuji.shizuoka.jp">sa-sangyou@div.city.fuji.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	主幹 小田桐 健

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士宮市	課題区分	指定課題
課題タイトル	自転車を活用した健康づくり		

課題の概要(背景や理由等)	自転車を活用した健康づくりを進める方策を検討したい。市民が通勤・通学や買い物等で日常的に利用し、休日は自分に合ったサイクリングルートで運動など、暮らしの中に自転車を活用した健康づくりを広げ、市民生活の質の向上を図っていく。
希望する調査研究内容や期待すること	市民が健康づくりのために自転車を活用する意識を高める手法を提案してほしい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	富士宮市 関係各課 富士宮市観光協会 など
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	所有施設の無償使用(会議室など) 上記団体等への紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	企画戦略課 地域政策推進室 健康増進課 健康増進係
電話番号	企画戦略課 地域政策推進室(0544-22-1215) 健康増進課(0544-22-2727)
E-mail	企画戦略課 地域政策推進室(kikaku@city.fujinomiya.lg.jp) 健康増進課 健康増進係(kenko@city.fujinomiya.lg.jp)
4年度担当者	企画戦略課 地域政策推進室(山本 明子) 健康増進課 健康増進係(安田 美律枝)

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡市	課題区分	指定課題
課題タイトル	GISを活用した静岡市の生物多様性保全の基礎調査		

課題の概要(背景や理由等)	<p>人間の活動や環境破壊によって、近年、生物多様性の損失が急速に進行しており、このままでは自然からの恵み(水や食料、資材、燃料など)を享受することが困難となるとされている。</p> <p>生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)では、陸海共に30%の保護区を設定することが採択され、これにともない、環境省では2030までにOECM(※)の認定を全国で進めることとしている。</p> <p>特に2023年度には少なくとも100地域以上で認定を行う予定である。</p> <p>静岡市でも様々なデータから生物多様性保全のポテンシャルの高い場所を選定し、優先的に保全するとともに、OECMの認定や、保全活動拡大の拠点としていきたい。</p> <p>なお、生物多様性の保全については、生き物に関する情報だけでなく、防災面、歴史・文化の構成資産、環境資源など様々な視点からの解析が必要になる。</p> <p>※OECM: 民間等の取組により保全が図られている地域や保全を目的としない管理が結果として自然環境を守ることに貢献している地域。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>静岡市に関する様々なデータをGISを使って統合し、生物多様性保全地域抽出のための地図データの作成を依頼する。</p> <p>データは既存保全地域に加え、国土数値情報や静岡市オープンデータなどを利用して、防災、歴史・文化、景観など、生物多様性に関する様々な視点を取り入れることとしたい。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡市の所有するデータの提供</li> <li>・静岡市役所庁内各課との顔つなぎ・調整</li> <li>・静岡市内の保全活動団体の保有するデータの取得</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	常葉大学	学部等	社会環境学部
ゼミ・団体名(担当教員)	浅見 佳代 准教授	連絡先 E-mail	<a href="mailto:054-297-6324">054-297-6324</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	環境創造課 自然ふれあい係
電話番号	054-221-1319
E-mail	<a href="mailto:kankyousouzou@city.shizuoka.lg.jp">kankyousouzou@city.shizuoka.lg.jp</a>
4年度担当者	高松

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡市	課題区分	指定課題
課題タイトル	井川地区における特産品のパッケージ開発		

課題の概要(背景や理由等)	<p>井川地区は、静岡市最北に位置する人口400人強の中山間地である。農産物やその加工品を特産としており、高地で育った野菜はおいしいと一定のファンも存在するが、商品の良さを表現するPR力が地域には乏しく、ファンの新規獲得ができていない。生産者の高齢化が進んでおり、かけられる予算や技術は限られるが、商品の良さを消費者に伝えられるパッケージが欲しい。</p> <p>また、井川には市で運営する井川湖渡船があり、地域の観光資源としてイベント等に活用している。令和4年度には、物販や展示を通じて地域の魅力をPRするスペースを備えた新待合所がリニューアルオープンするため、これを機にクルーズとからめて地域の魅力を発信するような特産品のPRもしていきたい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>特産品の販売を通じ、井川の魅力発信、地域振興につながる仕組みやデザインについて作成・提案をお願いしたい。具体的な協力依頼内容は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安価で魅力あるパッケージデザインの作成・提案</li> <li>・既存商品のブラッシュアップ(詰め合わせ・贈答品への展開等)の提案</li> <li>・商品の店頭展示、商品紹介(パンフレット、HP等)等の手法の提案</li> <li>・渡船限定パッケージ等、渡船事業と提携方法の提案</li> <li>・地区全体のPRや振興につながるキャラクター、デザイン等の提案</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	アルプスの里、井川のらり屋等、井川の特産品生産者
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係団体との連絡調整</li> <li>・会議場所の提供</li> <li>・井川地区への来訪者(井川湖渡船利用者等)を対象とした消費者アンケートへの協力</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	デザイン学部デザイン学科
ゼミ・団体名(担当教員)	佐井国夫 教授	連絡先 E-mail	<a href="mailto:sai@suac.ac.jp">053-457-6203</a> <a href="mailto:sai@suac.ac.jp">sai@suac.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	井川支所
電話番号	054-260-2211
E-mail	<a href="mailto:ikawa@city.shizuoka.lg.jp">ikawa@city.shizuoka.lg.jp</a>
4年度担当者	上治、興津、川崎

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	藤枝市	課題区分	指定課題
課題タイトル	観光を通じて藤枝茶を未来へ繋ぐ！お茶を活用した体験型観光商品の企画		

課題の概要(背景や理由等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市は、煎茶、抹茶の原料となる碾茶、玉露など多くの種類のお茶が生産され、市内には「茶町」という地名が存在するなど、古くから多くの茶商が集まり、志太地域の茶の集散地として栄えてきた。しかし、近年は若者のお茶離れやお茶の消費量の減少、茶農家の高齢化や後継者不足など、本市の茶業は多くの課題に直面している。</li> <li>そのような状況を、本市の観光施策として取り組んでいる「地域資源を活用した体験型観光」を通じ打開し、課題解決の一助としたいと考えている。「お茶」を活用した体験型観光商品(例:茶摘み体験やブレンド茶作り体験)を企画し、お茶ツーリズムを通じて本市への観光客誘致へつなげるとともに、藤枝茶を市内外へ向けて発信していく機会としたい。</li> <li>企画した商品は、実際の販売に向けて令和4年度中にモニターツアーの実施、参加者からのフィードバック、販路開拓までを目標としている。令和5年度は、4年度の商品の磨き上げを行うことで、継続的な販売と集客につなげていく。</li> <li>学生にとっては、市や地域の事業者と一緒に、商品企画や課題解決を模索する経験は、インターンシップや職業経験とは異なり、実際のビジネスを肌で感じる貴重な機会となると考えている。</li> <li>本市にとっては、早い段階から若者と地域との接点を作ることができ、藤枝市のファン作りにつながるとともに、若者に向けた藤枝茶のPRや、若者の柔軟な発想と斬新なアイデアを取り入れることができる、大変貴重な機会になると考えている。</li> </ul>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>お茶ツーリズムは、既に全国各地で取り組みがされている。他で実施されている体験型商品と全く同じ内容では埋もれてしまう可能性があり、同じ体験型商品でも「本市ならではの付加価値を付ける必要がある。</li> <li>ターゲットは、20代～30代の女性。コト消費(体験にお金を使う消費行為)を求める傾向の多い世代であり、Instagram等のSNSを利用した藤枝茶の間接的な宣伝や発信を通じ、インフルエンサーにもなり得ると分析している。</li> <li>若い人たちの目線で、「どうやって若者にお茶の魅力を届けるか」という点から、若者目線での調査・研究及び、商品の造成までお力をお借りしたいと考えている。</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤枝市役所関係各課(観光交流政策課、農林課、お茶のまち推進室 など)</li> <li>藤枝市内茶農家</li> <li>藤枝市観光協会</li> <li>公益財団法人するが企画観光局(静岡県中部エリアの広域観光) 等</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の利用(会議室、地区交流センター等)</li> <li>関連団体との連絡及び調整</li> <li>メディアへのプレスリリース</li> <li>関係団体の紹介(旅行会社など)</li> <li>資料の提供</li> <li>市関係部局との調整</li> <li>市担当職員の派遣・同行 等</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光交流政策課 観光政策係
電話番号	054-643-3078
E-mail	<a href="mailto:kanko@city.fujieda.lg.jp">kanko@city.fujieda.lg.jp</a>
4年度担当者	前田 一徳

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	島田市	課題区分	指定課題
課題タイトル	島田市の御利益スポットを連携・周遊させる手法のブラッシュアップ・改善提案		

課題の概要(背景や理由等)	<p>島田市には「すべらず地蔵尊」「合格地蔵尊(合格駅)」「日限地蔵尊」の受験ご利益3地蔵があり、更に「蓬莱橋」が897.4m(厄無し)であることから「厄除け」スポットであり、「KADODE OOIGAWA」などの御利益スポットが多数ある。これらはそれぞれ学校・大学・就職の受験の合格祈願をするスポットになっているが、認知度が低いのが課題である。</p> <p>そのため、これらのご利益スポットを点で終わらせるのではなく、繋げて線としてこれらを巡ることで、学校・大学・就職の受験の御利益ルートとして確立させ、市内外にPRするため、R3にこの課題に対する提案を求め、学生目線でのルート構築や情報発信を行った。</p> <p>これについて、まだまだこれをブラッシュアップしていく必要があり、情報も継続して発信していく必要があるため、引き継ぎ、調査研究を依頼したい。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	R3に作成した御利益ルートの情報内容や、その魅せ方、情報発信方法などを調査分析し、学生に響く内容に改善をして欲しい。 また、学生に届くように情報発信をして欲しい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	島田市役所内は、観光課・博物館課 島田市観光協会 おおいなび(KADODE OOIGAWA内)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	情報発信媒体として、市HPサイトの活用提供 会議室の貸与、関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡県立大学	学部等	経営情報学部
ゼミ・団体名(担当教員)	大久保ゼミ (大久保あかね教授)	連絡先 E-mail	<a href="tel:054-264-5475">054-264-5475</a> <a href="mailto:akane@u-shizuoka-ken.u.ac.jp">akane@u-shizuoka-ken.u.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	島田市 産業観光部 文化資源活用課
電話番号	0547-36-7381
E-mail	<a href="mailto:b-katsuyou@city.shimada.lg.jp">b-katsuyou@city.shimada.lg.jp</a>
4年度担当者	係長 大谷哲也



## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	島田市	課題区分	指定課題
課題タイトル	茶の実油を使用した建設資材の調査研究		

課題の概要(背景や理由等)	本市に限らず、県内の茶農業については、担い手不足や高齢化に伴い茶畑の耕作放棄地が年々増加しています。 そこで、耕作放棄地となっている茶畑を利用し、そこから採れた産物を建設資材に加工することが出来るのであれば、食文化以外の地産地消が可能になるのではないかと考えました。
希望する調査研究内容や期待すること	・加工した茶の実油が、舗装工事で使用するアスファルト乳剤の代替品として使用することが可能なのか、その調査研究の成果を期待しています。 ・また、土壤汚染対策法等で規制される有害物が含まれるのか、その調査もお願いしたいです。 ※茶の実油を廃油処理用固化材などで加工し、碎石等と混ぜて舗装の合材にするようなイメージです。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	・静岡県農林技術研究所 茶業研究センター ・一般社団法人 日本アスファルト乳剤協会 ・静岡県アスファルト合材協会 ※上記の団体とは未協議です。
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	市内の静岡県アスファルト合材協会会員の紹介は可能です。

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	都市基盤部 都市政策課 土地対策係
電話番号	0547-36-7179
E-mail	<a href="mailto:toshikei@city.shimada.lg.jp">toshikei@city.shimada.lg.jp</a>
4年度担当者	田村 登央(たむら のりお)

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	川根本町	課題区分	指定課題
課題タイトル	古文書整理 地域資源としての古文書を考える		

課題の概要(背景や理由等)	川根本町千頭の殿岡家には、川根地域の発展に貢献した殿岡嗽石～とおかそうせき～(1851～1933年)によって蓄積された未調査の文書が約4000点あった。これらの古文書は、地域の歴史・産業・生活を知るうえで重要なものと考えられるが、町で地域資源としての価値を判断するのは困難であり、専門性のある大学に調査を依頼した。現在整理が進み、内容が判明してきた古文書も多い。しかし、未整理の古文書も残されており、地域資源としての価値・利用方法については今後検討が必要である。
希望する調査研究内容や期待すること	(希望する研究内容)引き続き、殿岡家が所蔵する古文書の調査と概要目録を作成し、町で保管すべき古文書の判別を行い、その保管方法や活用方法を検討する。 (期待すること)町の歴史を探るうえで重要な文書の散逸を防ぐ。古文書を文化遺産として後代に伝えるために、町としてどのように保管・活用すべきかを検討し、地域資源として活用するための基礎を作る。この場を町内の学生が本物の古文書に触れる場として活用し興味をもつきっかけを作り、歴史研究やまちづくりの担い手育成のひとつとしたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	川根本町文化財保護審議会、町史研究会など
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	作業場所の貸与 関連する個人や団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	文化政策学部
ゼミ・団体名(担当教員)	西田かほる・水谷悟	連絡先E-mail	<a href="mailto:nishida@suac.ac.jp">nishida@suac.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	教育委員会 社会教育課
電話番号	0547-58-7080
E-mail	<a href="mailto:shakai-kyouiku@town.kawanehon.lg.jp">shakai-kyouiku@town.kawanehon.lg.jp</a>
4年度担当者	鈴木 裕麻

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	菊川市	課題区分	指定課題
課題タイトル	日本人にも外国人にも住みやすいまちの魅力について		

課題の概要(背景や理由等)	令和2年の国勢調査によると、本市の人口は47,789人と前回(H27)調査と比べて、1,026人増加した。その内、外国人人口は3,473人で人口に占める割合は7.3%と県内第1位となっている。人口減少・少子高齢化が進展する中、外国人住民は地域社会を支える貴重な担い手となっている。また、日本人と外国人住民が今まで以上に相互理解を深めるとともに、多様な価値観を持った人たちが一つになれるようにシビックプライドを醸成することが求められている。
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を生かした地域づくりに向け、多文化共生の推進を目的とした市民団体等の取組や、地域で活動する外国人住民やグループの活躍を調査</li> <li>・上記調査を踏まえ、「日本人にとっても外国人にも住みやすいまち」という視点で本市の魅力を取りまとめる</li> <li>・取りまとめた魅力の効果的な発信方法の研究、提案</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・菊川市市民協働センター</li> <li>・虹の架け橋菊川・小笠教室</li> <li>・つながる菊Caféプロジェクト</li> <li>・NPO法人ソヒゾ・デ・クリアンサ日伯交流協会</li> <li>・FONきくがわ本旅図書室 など</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の提供</li> <li>・現地視察のサポート</li> <li>・関連する個人、団体の紹介</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	常葉大学・大学院	学部等	教育学部/外国語学部
ゼミ・団体名(担当教員)	多文化共生ゼミ(星野 洋美)	連絡先E-mail	<a href="mailto:hhoshino@sz.tokoha-u.ac.jp">hhoshino@sz.tokoha-u.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	秘書広報課
電話番号	0537-35-0924
E-mail	<a href="mailto:hishokoho@city.kikugawa.shizuoka.jp">hishokoho@city.kikugawa.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	赤堀景介

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	掛川市役所	課題区分	指定課題
課題タイトル	掛川城・高天神城跡・横須賀城跡を効果的に連携・周遊させるための新たな提案		

課題の概要(背景や理由等)	掛川市内には、掛川城・高天神城跡・横須賀城跡の3つのお城があり、「掛川三条ものがたり」として、パンフレット・動画作製、御城印販売、期間を限ったドライブスタンプラリーを行っています。3城を連携させ、より効果的な誘客を図りたい。
希望する調査研究内容や期待すること	三城とも徳川家康ゆかりの城であるが、令和5年の大河ドラマ「どうする家康」放映を踏まえ、この期に3城をより効果的に活用し、多くの観光客の皆さんに訪れていただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	掛川観光協会 学芸員 掛川商工会議所 掛川みなみ商工会 かけがわ街づくり株式会社 地区のまちづくり協議会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光交流課 観光交流係
電話番号	0537-21-1121
E-mail	<a href="mailto:kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp">kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	掛川市役所	課題区分	指定課題
課題タイトル	教育体験プログラムを活用した教育旅行の可能性について		

課題の概要(背景や理由等)	コロナ禍において、観光分野は県外をまたぐ移動等自粛を求められ、観光客は大きく減少している。そのような現状の中、ポストコロナを見据えて教育体験プログラムの作成委託を市内業者に依頼している。実際に運用していくにあたり、どのようにしたらより多くの大学生がプログラムを使用して掛川を訪問したいと思うか、教授や学生へのアプローチの仕方など働きかけをどうしたらよいかを課題で、研究していきたい。
希望する調査研究内容や期待すること	掛川市で学んでみたい、掛川市民と交流して継続したつながりを持ちたいと思ってもらうことで掛川を訪れるリピーターが増えたらよい。 可能であれば、実際に作成されたプログラムでモデルツアーを実施していただき、学生としてのご意見も伺いたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	掛川観光協会、市役所関係課、学び旅実行委員会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光交流課 観光交流係
電話番号	0537-21-1121
E-mail	<a href="mailto:kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp">kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	磐田市	課題区分	指定課題
課題タイトル	桶ヶ谷沼における自然環境保全活動について		

課題の概要(背景や理由等)	磐田市にある桶ヶ谷沼は、国内希少野生動植物種に指定されているベッコウトンボの生息が確認されている地域である。その保全活動を自然保護団体が主体となって実施しているが、近年は個体数が減少してきていることに加え、会員及び関係団体の高齢化により活動の継続が難しくなっている。 そのため、持続可能な保全活動や沼周辺の自然環境の活用方法などを検討したい。
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物調査(トンボ、魚類、野鳥など)</li> <li>・湿地帯の保全方法の検討及び実施</li> <li>・沼周辺人工池の有効な活用方法及び試験運用</li> <li>・ベッコウトンボ陸上繁殖施設の整備及び維持管理方法検討</li> <li>・その他沼周辺を活用したフィールドワーク</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桶ヶ谷沼管理運営委員会</li> <li>・行政(磐田市環境課・静岡県自然保護課)</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の貸与</li> <li>・関連団体の紹介</li> <li>・必要資材の調達(要相談)</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	環境課 環境保全グループ
電話番号	0538-37-4874
E-mail	<a href="mailto:kankyo@city.iwata.lg.jp">kankyo@city.iwata.lg.jp</a>
4年度担当者	倉谷

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	磐田市	課題区分	指定課題
課題タイトル	学生を中心とした若年層の文化会館の利用について		

課題の概要(背景や理由等)	<p>当市では、施設の老朽化により磐田市民文化会館という文化施設を閉館し、令和4年夏に新しい文化会館が開館予定である。</p> <p>かつての会館は磐田駅から徒歩10分という立地にあり、市内高校からのアクセスも良かったが、新しい会館は公共交通機関でのアクセスが難しい立地にある。しかし、会館内に防音室や交流ロビーなどかつての会館にはなかった機能を備えており、学生を中心とした若年層にも利用してもらいたいと考えている。</p> <p>そこで新しい会館を若年層へ向けてどのようにアピールしていくのが課題となっている。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>学生が文化施設にどういった機能を求めているのか、どのような施設であれば訪れたいと思うのか、また若年層が文化芸術に触れるためにはどのような企画・事業を行うべきなのかを調査してほしい。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	磐田文化振興会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	文化振興課 文化振興グループ
電話番号	0538-59-3333
E-mail	<a href="mailto:bunkashinko@city.iwata.lg.jp">bunkashinko@city.iwata.lg.jp</a>
4年度担当者	森 晴香

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	浜松市	課題区分	指定課題
課題タイトル	浜松市北区引佐町久留女木地区における地域づくりの方策の研究		

課題の概要(背景や理由等)	<p><b>【概要】</b> 人口減少や高齢化によって地域の担い手不足や耕作放棄地の増加など地域課題を抱えている北区引佐町久留女木地域で、棚田を軸として、地域住民や出身者を対象とした実態調査を実施する。</p> <p><b>【背景】</b> 静岡文化芸術大学船戸ゼミでは、久留女木地域の重要な「地域資源」である棚田で、米作りを通じた地域の共同活動や地元住民に係る調査を実施している。これまでの活動を通して、地域住民と棚田との関わりや棚田に対する意識、考えを把握することができた。 今後も、将来的な地域機能維持や本市の中山間地域振興事業実施などに係る基礎資料として把握する必要があると考える。このような調査は、行政だけで進めることは難しいため、実際に地域住民と共に活動している大学の協力を得て進める必要がある。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p><b>【地域資源を軸とした実態調査】</b> 棚田での耕作には、地元住民だけでなく、出身者(他出子)も参加しているため、出身者が米作りを通じて実家や集落との関係を強めていけば、将来的な地域の担い手となり、地域支援体制がより整う可能性が高まる。 令和3年度は、コロナ禍で調査活動が制限されたものの、地域における出身者の実態の把握をすることができた。令和4年度は、地域資源である棚田に軸をおき、調査対象をさらに拡大した実態調査を行うことで、棚田での米作りを通じた出身者(他出子や孫など)による集落を支える仕組みが構築できることを希望する。</p> <p><b>【持続的な集落づくりへの期待】</b> 船戸ゼミでこれまで実施してきた天竜区佐久間町における調査経験を活かし、地域資源を活用した持続可能な集落づくりの方策提示を期待する。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松市引佐協働センター</li> <li>・東久留女木自治会</li> <li>・浜松山里いきいき応援隊</li> <li>・久留女木地区の地域づくり団体「久留女木竜宮小僧の会」など</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・浜松市市民協働・地域政策課・引佐協働センター・浜松山里いきいき応援隊による、船戸ゼミ・自治会・地域団体「久留女木竜宮小僧の会」への橋渡しやフィールドワークのサポート</li> <li>・引佐協働センターの会議スペース等を無償貸与</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	文化政策学部
ゼミ・団体名(担当教員)	船戸 修一	連絡先 E-mail	<a href="mailto:s-funa@suac.ac.jp">s-funa@suac.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	市民部 市民協働・地域政策課 移住・中山間地域グループ
電話番号	053-457-2243
E-mail	<a href="mailto:shiminkyodo@city.hamamatsu.shizuoka.jp">shiminkyodo@city.hamamatsu.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	鈴木 芙実



## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	浜松市	課題区分	指定課題
課題タイトル	春野町における民間口承文化財(昔話)の調査・記録・公開による地域文化の保存と継		

課題の概要(背景や理由等)	<p>天竜区には、数多くの有形無形の文化財が存在し、こうした地域資源は、地域への誇りとともに生活の潤いと質を向上させる力となる。区においては、これらを保存継承し地域の活性化につなげ、地域文化の豊かさを実感できる環境づくりが求められている。</p> <p>天竜区の中山間地において少子高齢化に伴う過疎化が進行する中、昔から地域に伝わる昔話(伝説)や家庭に受け継がれた昔話を継承できる人たちが数少なくなっており、地域に根差して語り継がれてきた無形の文化財を継承していくことが、文化財保護の観点からも大きな地域課題となっている。</p> <p>そのため、現在まで引き継がれている口承文化財(昔話)としての地域文化である昔話を保存継承し、この土地に生きてきた人々の心と記憶の文化遺産を、後世に伝え残していかなければならない。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>地元住民から直接的に口承文化財としての昔話を、調査聞き取り記録することにより、よりその学術的な価値が高くなるとともに、書籍にすることにより、将来においても地域の生活文化を正確に顧みることができる。</p> <p>また、この地域の人々の心の豊かさにも深く接することにより、その地域の特性や価値がより学術的にも明確に分析することができる。</p> <p>以上のことから、天竜区内・春野町全域を対象として、民間口承文芸(昔話)の採録調査を実施し、その保存、公開、継承を進めてほしい。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	春野町気田、豊岡及び宮川地区自治会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	自治会等への昔話採録調査の協力呼掛けや自治会館等の使用許可依頼 春野協働センターの市民協働スペース利活用等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	文化政策学部
ゼミ・団体名(担当教員)	二本松ゼミ(伝承文化ゼミ) 二本松 康宏	連絡先E-mail	<a href="mailto:y-niho@suac.ac.jp">y-niho@suac.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	春野協働センター
電話番号	(053)983-0001
E-mail	<a href="mailto:hr-kyodo@city.hamamatsu.shizuoka.jp">hr-kyodo@city.hamamatsu.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	尾畑 佳志

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	指定課題
課題タイトル	東静岡駅周辺地区における駅南口県有地活用方策の研究		

課題の概要(背景や理由等)	<p><b>【概要】</b> 南北が一体となり若者をはじめとする多彩な人々を魅了し、多様な交流と賑わいを生み出す「文化とスポーツの殿堂」の形成を目指す東静岡駅周辺地区において、南口県有地の活用検討、具体的な活用(実証実験、暫定的な活用)を実施。</p> <p><b>【背景・理由】</b> 静岡県立大学八木ゼミは、令和3年度から東静岡駅南口県有地の活用アイデア検討、オープンカフェを主体とした実証実験時の協力を実施している。県とのミーティングにおいては、大学側で行った東静岡駅を利用する学生を対象したアンケート集計結果や、これを基にした暫定的な活用の具体的なアイデアが出され、これらを県が実証実験として行い、学生も実験に参加し熱海被災地支援販売や対面アンケート等を実施することで、東静岡駅周辺の賑わい創出につながるかを検証した。本格的な活用を見据え、賑わい創出に向けた活用の仕組みづくりには、利用者となる若者が在籍する大学との連携が継続して必要である。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p><b>【研究内容】</b> 南口県有地における初めての実証実験の検証結果を踏まえ、賑わい創出のための対象者のニーズを把握し、県と連携した更なる実証実験の立案・実施・検証、マスコットキャラクター「ヒガナンくん」(県立大学考案)を使った広報を実施する。</p> <p><b>【期待すること】</b> 学生が若者の視点で南北の周遊を踏まえた活用のアイデアを提案するとともに、学生がプレイヤーとなり南口県有地で活動やフィールドワークすることを期待する</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>静岡市(企画局) (公財)静岡県文化財団 アーツカウンシルしずおか 東静岡駅周辺大学等</p>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>研究に関係するゼミ活動、大学講義時等の県職員の随時参加 グランシップ広場での実証実験における活動フィールドの提供 活用アイデア提案時の関係団体、関係者との連絡調整 県庁会議室の無償貸与</p>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡県立大学	学部等	経営情報イノベーション研究科 (ツーリズム研究センター)
ゼミ・団体名 (担当教員)	八木ゼミ(八木健祥教授)	連絡先 E-mail	054-264-5476 k-yagi@u-shizuoka-ken.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	スポーツ・文化観光部政策管理局企画政策課
電話番号	054-221-3612
E-mail	bunkakankou-seisaku@pref.shizuoka.lg.jp
4年度担当者	藤島、永田

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	指定課題
課題タイトル	「ヤングケアラー」に関する高校生・大学生等による当事者支援活動(ピアサポート)の実態調査研究		

課題の概要(背景や理由等)	近年、本来大人が担うと想定されている家事等を行っている子どもを「ヤングケアラー」としてその支援の必要性が提起されている。 ヤングケアラーに対する支援については、ケアの対象となっている者の支援サービスの見直しや相談窓口の設置等の支援が考えられるほか、当事者による支援活動「ピアサポート」についても注目されている。このことから地域課題として、当事者支援活動(ピアサポート)に関する実態を把握したいとともに、当事者支援活動の普及・促進のために効果的な支援方策を検討したいため。
希望する調査研究内容や期待すること	県内に所在する高等学校や大学等において、「ヤングケアラー」に関する普及啓発や当事者支援活動(ピアサポート)を行っている団体・グループの把握及びその活動実態に関する調査及び普及啓発や当事者支援活動の促進に関する研究
情報収集や意見交換等で連携する団体等	静岡きょうだい会(きょうだいへのケアを担う者の当事者団体)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	「ヤングケアラー」に関する実態調査(令和3年度実施中)結果の情報提供 静岡きょうだい会や社会的養護経験者との意見交換の機会

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	こども家庭課こども家庭班
電話番号	054-221-2307
E-mail	kokatei@pref.shizuoka.lg.jp
4年度担当者	未定(令和3年度内は鈴木(淳)あてでお願いします。)

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	公益財団法人静岡県舞台芸術センター	課題区分	自由課題
課題タイトル	SPACの人材育成事業の成果分析		

課題の概要(背景や理由等)	SPACでは毎年、中高生舞台芸術鑑賞事業をはじめシアタースクール、スパカンファン、演劇出前塾、放課後えんげき教室、ダンスの種プロジェクトなど、多くの人材育成事業を展開しているが、それらはチケット収入や出演料収入などほとんど見込まれない事業である。採算の取れない事業を今後も継続していくためには、それらの活動が目的にかなう結果を出しているかどうか成果分析をする必要がある。
希望する調査研究内容や期待すること	SPACの人材育成事業の目的は、将来の演劇に関わる人材を育成することではなく、「劇場は世界を見る窓」という考えに基づき、演劇作品を通じて“他者”に出会い、世界や人間の多様性や孤独に気づくことができる回路を提供するものと考えている。 そこで、何を以って成果とするかというところを定めた上で、事業によって子どもたちの心にどのような影響を及ぼしているのか検証していただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	静岡県庁、各市町教育委員会、学校、施設など
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	静岡芸術劇場内でのゼミ実施、人材育成事業の実施現場の見学、関連団体の紹介等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	事務局 総務課
電話番号	054-203-5735
E-mail	<a href="mailto:spac5735@po2.across.or.jp">spac5735@po2.across.or.jp</a>
4年度担当者	総務課長 小田益秀

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	御殿場市	課題区分	自由課題
課題タイトル	生物多様性保全に関する調査・研究		

課題の概要(背景や理由等)	御殿場市は富士山麓・箱根外輪山に位置しており、多様な自然環境を擁しています。しかしながら、近年、地球温暖化・気候変動や開発行為、外来種の増加などの要因により、市内の豊かな生物多様性が脅かされています。現在、市内には自然の復元を目的としたビオトープなどが複数整備されていますが、これらの調査・研究を行うことで、市内の自然環境や生物多様性を保全するための施策の足掛かりとしていきたい。
希望する調査研究内容や期待すること	市内に生息する在来生物(植物)や外来種の侵入状況の実態調査に加え、生物多様性の保全するための施策・手法についての研究を期待します。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	市内環境保全団体
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	市役所・市内公共施設の会議室の貸与や上記関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	常葉大学	学部等	ビオトープ研究会
ゼミ・団体名(担当教員)	山田 辰美	連絡先 E-mail	<a href="mailto:yamada@fujikankyolab.or.jp">yamada@fujikankyolab.or.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	環境課 環境政策・保全スタッフ
電話番号	0550-83-1603
E-mail	<a href="mailto:kankyo@city.gotemba.lg.jp">kankyo@city.gotemba.lg.jp</a>
4年度担当者	小寺 智之

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	三島市	課題区分	自由課題
課題タイトル	長期宿泊型研修における大学との連携及び教育的効果の検証		

課題の概要(背景や理由等)	<p>野外活動等の体験学習は、「社会を生き抜く力」として必要となる基礎的な能力を養う効果があるとされている。小中学校においても多様な体験学習が展開されている一方で、青少年の自立心、仲間意識、リーダーシップ等を育むことに関し、より効果高い長期宿泊型の体験活動については、学校や教員等の負担が一因となり、実施できている学校の割合は必ずしも高くない状況である。</p> <p>当市では従来から「三島市少年の船事業」という船舶の閉鎖空間という特性を利用した5、6泊程度の長期宿泊型研修を実施しているが、費用対効果の検証や、指導員の人材確保に苦慮している。しかしながら、心身ともに健全な青少年の育成を図るためには重要な事業であると捉えているため、今後も事業の継続を考えている。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生の当事業への参加にはどのような形態があるのか</li> <li>・大学生にとって当事業への参加はどのような学びの機会となるのか</li> <li>・長期宿泊型研修の効果と課題</li> <li>・教育的効果の定量的評価方法</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の社会教育団体</li> <li>・各小中学校</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民生涯学習センター及び各公民館、箱根の里(少年自然の家)施設の使用</li> <li>・社会教育団体の紹介、助言</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	生涯学習課 女性青少年係
電話番号	055-983-0883
E-mail	<a href="mailto:syougai@city.mishima.shizuoka.jp">syougai@city.mishima.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	鈴木啓晃、下舘敬

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	三島市	課題区分	自由課題
課題タイトル	三島市立箱根の里の有する自然環境的な魅力、立地や施設的な特性、改善点を考える		

課題の概要(背景や理由等)	箱根の里について、運営合理化の観点から指定管理制度の導入や民営化の検討要請を受ける一方、当施設を開設当初(昭和62年4月)から使用しているボーイスカウト等団体からは、近年の周辺市町に所在する類似施設の相次ぐ民営化等への動きやその後の利用形態の変化に対するとまどい(オートキャンプやグランピング等が横行し、青少年の心身を陶冶するための社会教育的機能が見失われている等)により、現行の公設公営での施設維持を望む声も高まっている。このため、施設の魅力・改善点等を客観的・学術的な立場から助言いただき、両者の主張を乗り越えて新たな方向性を見い出したいと考えている。
希望する調査研究内容や期待すること	箱根の里の現状を検証していただき、第三者の立場から、市担当部署を含めた当事者等からは見えない魅力等を引き出し、最新の海外等の研究成果を反映させるなど、学術的見地から問題点や対策をお示しいただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	三島市立箱根の里運営協議会
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	三島市立箱根の里少年自然の家・キャンプ場使用料の免除、会議室の貸与、関連団体(ボーイスカウト等)の紹介やヒアリングの同行等

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	生涯学習課箱根の里
電話番号	055-985-2131
E-mail	<a href="mailto:hakonenosato@city.mishima.shizuoka.jp">hakonenosato@city.mishima.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	太田 尚希

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士市	課題区分	自由課題
課題タイトル	まちの魅力を発信する仕掛け		

課題の概要(背景や理由等)	<p>富士市が進めているシティプロモーションは、まちについて知り、まちに興味を持つことで、まちのことについて発信したくなる人を増やし、富士市の好感度を高めていくことです。</p> <p>「富士市って何もないよ」と市外の友だちに話してしまう市民よりも、「富士市にはこんなところがあるよ」「こんな面白いものがあるよ」と語れる人が増えれば、まちの発信力は高まり、富士市の好感度を高めることができると考えています。</p> <p>本市では大学進学と同時に地元を離れてしまう若者が多い傾向にあります。地元から離れていても若者の皆さんがまち(地元)の魅力をどう発信してもらうかが課題です。</p> <p>富士市民全体で富士市のシティプロモーションを進められるようなご提案をいただければ幸いです。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>富士市の魅力を発信したくなる仕掛けをご提案していただきたいと思います。</p> <p>ご提案いただいた内容によって、どんな方(年齢や性別、心理的状态など)が行動変容するかも併せて教えていただけると助かります。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>・富士市シティプロモーション課の職員</p> <p>※ご要望に応じて、調整いたします。</p>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>・会議室の貸与</p>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	総務部シティプロモーション課
電話番号	0545-55-2958
E-mail	<a href="mailto:fukushima_yuuki@sq.city.fuji.shizuoka.jp">fukushima_yuuki@sq.city.fuji.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	福島 勇輝



## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士市	課題区分	自由課題
課題タイトル	紙世代もデジタル世代もみんなが市の広報紙を読める体制づくり		

課題の概要(背景や理由等)	広報紙は市の情報をプッシュ型で届けることができる有効な広報媒体である。広報紙などの市の発行物は、現在、自治会を通じて各戸配布しているが、近年自治会から配付に対する負担増の声が上がっている。自治会の加入率(現在約8割)も少しずつではあるが減ってきている。自治会以外の配布方法(ポスティングなど)は費用がかかり、新聞折込は、購読者率(約6割)が自治会加入率より低い。自治会未加入世帯には広報紙を入手できるよう、公共施設やコンビニエンスストアに配架したり、市ウェブサイトや書籍サイトへ広報紙を掲載したりしている。インターネット弱者はまだ多くおり、今は紙での発行を止める時期ではないと考えている。高齢者向けにスマホ教室などを行っているが、すべてのインターネット弱者全ての受講は難しい。
希望する調査研究内容や期待すること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会を通じた配付方法は本市に合っているか</li> <li>・より多くの市民に市の情報を届けられる最適な方法</li> <li>・本市のインターネット弱者率、スマホ活用率など、現状の分析</li> <li>・インターネット弱者をデジタル化に惹きつける手立て</li> </ul>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、広報物削減検討委員会等の紹介、必要な情報の提供

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	シティプロモーション課広報広聴担当
電話番号	0545-55-2700
E-mail	<a href="mailto:so-citypro@div.city.fuji.shizuoka.jp">so-citypro@div.city.fuji.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	佐野 敬子

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士市	課題区分	自由課題
課題タイトル	富士川流域における水生生物の生態系調査		

課題の概要(背景や理由等)	近年、富士川の水質環境が悪化し、魚類等を中心とした水生生物の生息数が激減していると言われている。 当市が実施している水生生物調査では、水質指標となるトビケラやカゲロウなどの水生生物やエビ、カニ等の甲殻類、魚類等が確認されている。 このような中、富士川流域における水生生物等の生息状況について詳細なデータを得る必要があると考えている。
希望する調査研究内容や期待すること	富士川流域(富士市域)における水生生物(水質指標となる生物等)の生息状況及び生息数とその分布
情報収集や意見交換等で連携する団体等	
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	調査用具一式 胴長(6足)・網、箱眼鏡、観察用水槽、トレイ、シャーレ、ルーペ、ピンセット等(3セット)の備品を貸与する

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	環境保全課水質担当
電話番号	0545-55-2776
E-mail	<a href="mailto:ka-kankyuhozen@div.city.fuji.shizuoka.jp">ka-kankyuhozen@div.city.fuji.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	芹澤 英和

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

一次締切:1月31日(月)二次締切 2月28日(月)

会員名	富士市	課題区分	自由課題
課題タイトル	大型ごみ処理の有料化の実態調査及び導入手法の提言		

課題の概要(背景や理由等)	<p>本市において、大型ごみ(粗大ごみ)は一部を選別し再資源化しているが、多くは破砕したのち焼却するかそのまま埋め立て処理されている。</p> <p>より細かい選別を行い再資源化を進めることで、焼却量や埋立量が減り、温室効果ガスの削減や最終処分場の延命化を図ることができる。また、大型ごみは人によって排出する量に差があり、量の多さに関わらず無料で処理をしている現状では公平性を欠いていると考えられる。</p> <p>このことから、市長の諮問機関である富士市廃棄物減量化等推進審議会から、上記を是正するため、大型ごみ有料化の導入を検討するよう答申が出されている。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>大型ごみ処理の有料化を実施している市町村の実態調査を行い、導入した経緯、時期、有料化した品目、料金設定、回収の方法、導入前後の処理量の変化等、有料化検討のための基礎資料の作成を行う。また、各市町村の情報を比較調査し、最適な導入方法を導き出し、提言を行う。</p> <p>実態調査や提言の内容をもとに、富士市廃棄物減量化等推進審議会において、有料化の有効性や導入の可否について、より具体的な審議を行うことができるため、本市のごみ減量施策に大きく寄与することが期待できる。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士市新環境クリーンセンター</li> <li>・富士市一般廃棄物協同組合</li> <li>・(株)富士環境保全公社</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の貸与</li> <li>・ごみ処理施設(富士市新環境クリーンセンター)の視察</li> <li>・関係団体の紹介</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	廃棄物対策課計画推進担当
電話番号	0545-55-2769
E-mail	<a href="mailto:ka-haikibutu@div.city.fuji.shizuoka.jp">ka-haikibutu@div.city.fuji.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	深澤 慎也

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	富士市	課題区分	自由課題
課題タイトル	松野地区における特定外来生物アライグマの生息分布調査		

課題の概要(背景や理由等)	アライグマは、本来の生息地域から人為的に国内に持ち込まれ、野生化した外来生物で、生態系や農作物等へ深刻な被害をもたらすことから、外来生物法により、特定外来生物に指定されており、主に市内西部地域(特に松野地区)において、農作物の採食や家屋への侵入等の被害が報告されている。 今後、生息数が増えていくと生態系等への被害が増大するため、防除の一環として捕獲対応しているものの、現状では、生息数・分布を把握できていない。
希望する調査研究内容や期待すること	松野地区におけるアライグマの生息数・分布の調査(聞き取り調査、痕跡調査、カメラ調査、捕獲調査等) ⇒生息数と分布を推計・推測することで、今後の効果的な捕獲につなげる。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	庵原猟友会(松野分会)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	備品貸与 ・センサーカメラ(2台 ※本課で未使用時) ・箱ワナ(1個 ※本課で未使用時) 捕獲個体処分の猟友会への依頼

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	環境保全課 自然保護担当
電話番号	0545-55-2773
E-mail	<a href="mailto:ka-kankyuhozen@div.city.fuji.shizuoka.jp">ka-kankyuhozen@div.city.fuji.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	後藤 卓

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	掛川市役所	課題区分	自由課題
課題タイトル	大学生ガイドとめぐる掛川市内観光の提案について		

課題の概要(背景や理由等)	現在観光ボランティアガイドの方々が、お客様をご案内していますが、高齢化が進んでおり、新たな人材の育成が課題です。
希望する調査研究内容や期待すること	現状の観光ガイドのスタイルや対象者にとらわれず、新たなスタイルや需要を呼び込むことが期待できる大学生ガイドの可能性と仕組みづくりについて、ご提案いただきたい(eバイク等の活用や、大学生ならではの発想・切り口・仕組みづくりなど)。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	掛川観光協会 ローカルライフスタイル研究会 掛川森林組合(eバイク)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光交流課 観光交流係
電話番号	0537-21-1121
E-mail	<a href="mailto:kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp">kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	掛川市役所	課題区分	自由課題
課題タイトル	粟ヶ岳をトレーニング等に活用するための提案について		

課題の概要(背景や理由等)	世界農業遺産「静岡の茶草場農法」の代表的な地域である茶畑が眼下に広がる粟ヶ岳は、ハイキングで多くの方が訪れる人気のスポットです。山頂まで片道約1時間の登山ですが、急傾斜が続き、ハイキングする方の中には、健康維持やトレーニングのために活用されている方も多くいらっしゃるようですが、そういった目的での活用は、一般的な認知度は低い状況です。
希望する調査研究内容や期待すること	健康維持やトレーニングに適した登山の仕方や、おすすめの登山メニュー開発などのご提案をいただき、若い年齢層や健康増進を求める人たちに、粟ヶ岳登山の新たな視点での魅力を広め、より多くの方々に訪れていただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	掛川観光協会 株式会社茶文字の里東山
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光交流課 観光交流係
電話番号	0537-21-1121
E-mail	<a href="mailto:kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp">kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	掛川市役所	課題区分	自由課題
課題タイトル	掛川市南部旅行者の市内陸部への誘客について		

課題の概要(背景や理由等)	コロナ禍において、サーフィンやサイクリングなど海岸線を楽しむ旅行者が増加している。しかし、サーファーの方は海を、サイクリストは太平洋岸自転車道を楽しみ、帰宅もしくは掛川市を通過しているのが現状である。
希望する調査研究内容や期待すること	海岸部利用者の行動実態の調査、利用者が魅力的に感じる内陸部への誘客、南部観光施設の活用、PR方法について、ご提案いただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	掛川観光協会、市役所関係課、地元サーファー・サイクリスト団体
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光交流課 観光交流係
電話番号	0537-21-1121
E-mail	<a href="mailto:kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp">kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	掛川市役所	課題区分	自由課題
課題タイトル	歴史的・文化的施設の観光面への有効活用について		

課題の概要(背景や理由等)	掛川市内には、日坂宿をはじめ、歴史的・文化的な施設が多数存在している。現状は、観光施設としての見学が主となっており、地元でも若い世代では、どういった施設であったかわからない方も多くなっている。
希望する調査研究内容や期待すること	掛川の歴史・文化を学んでもらうとともに、若い方にも興味をもってもらえるような施設の活用方法を検討・提案していただきたい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	掛川観光協会、市役所関係課、施設管理団体(川坂屋の会等)
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	観光交流課 観光交流係
電話番号	0537-21-1121
E-mail	<a href="mailto:kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp">kanko@city.kakegawa.shizuoka.jp</a>
4年度担当者	



## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	磐田市	課題区分	自由課題
課題タイトル	廃校を活用した敷地地区の地域再生デザイン構想の具現化		

課題の概要(背景や理由等)	<p>磐田市豊岡地区は、天竜浜名湖鉄道の駅が3駅あり、昨夏には新東名スマートICも開通し、新たな交流が期待できる地域である。また、農業・自然・文化といった資源に加え、早くから子供達へのグローバルコミュニケーションを実施するなど先進的な1面も併せ持つ、農山村地域である。当地域では、「豊岡東地区環境保全協議会」が主体となって、旧豊岡地区を持続的に発展させていくための「地域再生デザイン」を構想しており、旧豊岡東小学校跡地を拠点として活用すること検討している。令和3年度に本事業により地域の現状把握、課題検討、活性化方策の検討を実施した。引き続き、方策の詳細化を図り、検討されたアイデアを具現化するため、大学の活動としてその方策の検討を実施し、具体的な地域活性化対策に繋げたい。短期的目標として、地域活性化のプラットフォームとなる拠点を開設し、地域をデザインしていく枠組みづくり、拠点の管理運営方法の検討を行う。</p> <p>&lt;地域再生デザイン:イノベーションの森構想(仮称)概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敷地地区(旧豊岡村)を、大人と子供のイノベーションの舞台とする。</li> <li>・旧豊岡東小学校校舎を活用し、地域活性化拠点及びワーケーション/サテライトオフィスの場とする。</li> <li>・30haの山林は、作業道や小屋を作ったうえで、「自然科学博物館」と見立てて活用。大学のフィールドワークや研究場、子供たちの学習の場とする。</li> <li>・産官学+1(地元)の連携を想定</li> </ul>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>敷地地区を研究のフィールドとした活動の提案及び実施(可能であれば、単年だけでなく複数年にわたる活動)</p> <p>豊岡地区活性化のための拠点施設として、旧豊岡東小学校の具体的活用方法を検討。</p> <p>地域再生デザインを推進する枠組みづくりの検討。</p> <p>地域の農業・農村を資源を活用し、関係人口を増やす方策の検討。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>地域団体(豊岡東地区環境保全協議会、白壁館等)</p> <p>磐田市商工会議所</p> <p>磐田市</p> <p>静岡県(県農地保全課、中遠農林事務所農村整備課) 等</p>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議室の貸与(敷地地区)</li> <li>・関連団体の紹介</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡文化芸術大学	学部等	文化政策学部文化政策学科
ゼミ・団体名(担当教員)	都市・地域ゼミ(藤井康幸 教授)	連絡先E-mail	TEL 053-457-6167 E-mail yfj@suac.ac.jp

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	磐田市役所企画部資産経営課資産経営グループ
電話番号	0538-37-4804
E-mail	<a href="mailto:shisan@city.iwata.lg.jp">shisan@city.iwata.lg.jp</a>
4年度担当者	杉山竜祐

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	自由課題
課題タイトル	ふじっぴーに金の卵を生ませる方法		

課題の概要(背景や理由等)	静岡県政をPRするため、公式キャラクターふじっぴーや県歌等をより有効に活用する必要がある。 併せて、ふじっぴーや県歌等、県が保有する著作権等を知財として活用した財源確保を考えたい(現行はノベルティなしで無償で使用)。
希望する調査研究内容や期待すること	①ふじっぴー等を活用した県政PR方法の提案 ②①と関連した財源確保手法の提案 例) ・ふじっぴー動画作成、「投げ銭(ギフトング、スーパーチャット)」での収益システム ・このほかプロセスエコノミー、ナラティブ等付加価値向上策など
情報収集や意見交換等で連携する団体等	
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	広聴広報課
電話番号	054-221-2976
E-mail	<a href="mailto:PR@pref.shizuoka.lg.jp">PR@pref.shizuoka.lg.jp</a>
4年度担当者	未定(令和3年度中は、河合)

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	自由課題
課題タイトル	効果的なクリーン宣言(仮称)の発出方法と戦略的なPR方法について		

課題の概要(背景や理由等)	<p>(背景) 昭和45年、田子の浦港は工業排水による汚泥が堆積し港の機能が停止する「ヘドロ公害」が全国的に問題となった。昭和56年に全ての汚泥除去が完了している。平成14年、田子の浦港の一部で基準値を超過する底質ダイオキシン汚染土砂が確認されたため、除去している。この汚染土砂の除去は令和4年に完了し、クリーン宣言(仮称)する。</p> <p>(課題) 田子の浦港では毎年、基準値を超過しない河川から流入する土砂も掘削しているが「ヘドロ公害」「ダイオキシン」のイメージが付きまとい、受入れ先が限定され陸上処分が間に合っていない。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>(研究内容) 効果的なクリーン宣言の発出方法と戦略的なPR方法を研究されたい。</p> <p>(期待すること) 「ヘドロ公害」「ダイオキシン」のイメージを払拭し、堆積土砂の利用価値と需要を生み、有効活用を促進したい</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	静岡県交通基盤部 港湾局港湾整備課 田子の浦港管理事務所
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	交通基盤部 港湾局 港湾整備課
電話番号	054-221-3054
E-mail	<a href="mailto:kouwan_seibi@pref.shizuoka.lg.jp">kouwan_seibi@pref.shizuoka.lg.jp</a>
4年度担当者	石原 彬朗

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	自由課題
課題タイトル	道路や河川除草で発生する刈草の有効活用と地域資源回収サイクルの可能性について		

課題の概要(背景や理由等)	静岡県が行っている道路除草で発生する刈り草の処分費が増大しており、予算を圧迫している。従来は自治会や部農会で流域住民が行っていた河川除草については、農家の減少や高齢化によるコミュニティ活動の衰退から、実施されなくなってきており、県予算も限られていることから十分な除草ができずに地域の課題となっている。
希望する調査研究内容や期待すること	他県では発生した刈り草を堆肥化するなどの取組が始まっており、こうした取組が静岡県での実施可能性について検討したい。 小学校や自治会等で行っている新聞紙や雑誌などの資源回収では収集した団体に売却費が出ることから団体の活動資金にもなっている。こうしたことをヒントに放置竹林対策に伴うメンマづくりも始まっているが、こうしたサイクルが地域の道路・河川除草でも可能であるか検討したい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	沼津土木事務所管内の市町、しずおかアダプトロードプログラム団体、リバーフレンドシップ団体、リサイクル事業会社等
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	東部総合庁舎の会議室

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	沼津土木事務所 維持調査課 中村晃久
電話番号	055-920-2120
E-mail	<a href="mailto:numado-iji@pref.shizuoka.lg.jp">numado-iji@pref.shizuoka.lg.jp</a>
4年度担当者	中村 晃久

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	自由課題
課題タイトル	浄化槽法定検査受検率向上にむけた新たな取組について		

課題の概要(背景や理由等)	<p>浄化槽管理者には、保守点検、清掃とともに法定検査の受検が義務付けられている。</p> <p>しかし、法定検査受検の義務が認知されておらず、本県の法定検査受検率は令和元年度末時点で22.4%(全国40位)と低迷している。</p> <p>受検率向上を図るため、現在、未受検者に対し、ダイレクトメールによる受検案内文の送付等により周知を図っているが、本県の浄化槽設置基数は約49万基と全国3位の設置基数であることから、対象戸数が約37万基と膨大であり、全員に周知するには時間がかかる状況になっている。また、周知後いかに受検申込につながるることができるかが重要であると考えます。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>法定検査受検率の向上における効果的な周知方法や受検申込につながる新たな取組を提案していただきたい。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<p>(一財)静岡県生活科学検査センター (指定検査機関として本県で唯一法定検査を実施できる機関)</p>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<p>関連団体の紹介</p>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名 (担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	生活環境課
電話番号	054-221-2258
E-mail	seikan@pref.shizuoka.lg.jp
4年度担当者	未定(3年度担当者:三原)

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	自由課題
課題タイトル	港湾浚渫物の園芸等に対する培養土等としての有効利用について		

課題の概要(背景や理由等)	<p>(背景) 田子の浦港は、河川から年間約5万m<sup>3</sup>土砂が港内に流入することから、港湾機能を維持するには継続的な浚渫が必要である。浚渫土は、当港に隣接したプラントで分級脱水処理され、ごみ・水分・砂砂利及び、シルト・粘土分からなる脱水ケーキに分別される。その脱水ケーキの処分先の確保に苦慮している。</p> <p>(課題) 脱水ケーキは引取り先がなく、その処分に多大な費用を要し、コストの縮減が大きな課題となるため様々な利活用を検討している。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>(研究内容) 脱水ケーキを配合した培養土(家庭菜園や花植栽)を一般配布して、使ってみた感想などフィードバックをもらい、さらなる培養土配合の見直しを行うことを研究されたい。</p> <p>(期待すること) 脱水ケーキの処分コスト削減の一つの方法として新たな処理・利用方法を模索する。その特性を踏まえた有効性を裏付ける調査研究を希望する。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	静岡県交通基盤部 田子の浦港管理事務所
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	試験に用いる脱水ケーキの提供、試験地として県有地を使用する場合の連絡調整や申請等の支援

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	静岡大学	学部等	農学部生物資源科学科
ゼミ・団体名(担当教員)	持続可能型農業科学研究室(南雲俊之)	連絡先E-mail	<a href="mailto:nagumo.toshiyuki@shizuoka.ac.jp">054-238-4832</a> <a href="mailto:nagumo.toshiyuki@shizuoka.ac.jp">nagumo.toshiyuki@shizuoka.ac.jp</a>

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	交通基盤部 田子の浦港管理事務所 整備課
電話番号	0545-33-0498
E-mail	<a href="mailto:tago-seibi@pref.shizuoka.lg.jp">tago-seibi@pref.shizuoka.lg.jp</a>
4年度担当者	井出 陽菜

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	自由課題
課題タイトル	アフターコロナにおける若年層に対する献血の普及啓発手法への提案		

課題の概要(背景や理由等)	<p>少子高齢化に伴い、献血者の減少が見込まれる一方で、治療に必要な血液製剤の需要増大が予想され、若い世代の献血者の確保が重要となっている。</p> <p>平成29年度の本事業静岡産業大学葉口ゼミからの提言も参考に、献血ボランティアによる活動、献血セミナーの開催等により、献血の普及啓発に努めていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、対面での活動が十分にできない状況になっている。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	<p>県内大学生等を対象に、献血意識のほか、新型コロナウイルス感染症を踏まえた行動様式や情報収集の傾向を調査分析し、若い世代に対する効果的な啓発方法について検討する。</p> <p>また、大学のゼミナールにおいて、提案された効果的な啓発方法が、同世代の意識や考えに、反映されることを期待している。</p>
情報収集や意見交換等で連携する団体等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡県赤十字血液センター</li> <li>・大学及び高校生の献血ボランティア</li> <li>・医療関係者 など</li> </ul>
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種統計資料の提供</li> <li>・関係団体の照会</li> <li>・会議室の貸与</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学	—	学部等	—
ゼミ・団体名 (担当教員)	—	連絡先 E-mail	—

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	静岡県健康福祉部生活衛生局薬事課薬事企画班
電話番号	054-221-2410
E-mail	<a href="mailto:yakuji@pref.shizuoka.lg.jp">yakuji@pref.shizuoka.lg.jp</a>
4年度担当者	中村孝寛

## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	自由課題
課題タイトル	安心して子どもを産み育てたいと感じる子育て支援のあり方		

課題の概要(背景や理由等)	核家族化や地域のつながりの希薄化に伴う子育て家庭の孤立化などにより、子育てに関する負担や不安感が増加しており、少子化にも歯止めがかからない状況である。現代の若者の結婚や子育てに対する意識を明らかにするとともに、今後この状況に行政がどのような子育て支援施策を展開していくべきなのか検討したい。
希望する調査研究内容や期待すること	今後、出産や結婚を控える学生たちの視点から、子育てと仕事の両立についての考え方や、産み育てやすい環境とは何か、行政や地域にどのような子育て支援を求めるかを調査してほしい。
情報収集や意見交換等で連携する団体等	ふじさんっこ応援隊に登録している子育て支援団体
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふじさんっこ応援隊に登録している子育て支援団体を紹介可能</li> <li>・本課が所管している「ふじさんっこ☆子育てナビ」やSNS(Twitter、Instagram)による広報</li> <li>・子育てに優しい企業表彰の活動情報提供</li> </ul>

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	健康福祉部こども未来局こども未来課
電話番号	054-221-3546
E-mail	kodomo-m@pref.shizuoka.lg.jp
4年度担当者	未定



## 県内大学ゼミに調査研究を希望する地域課題調査票

会員名	静岡県	課題区分	自由課題
課題タイトル	身近な自然の生物多様性の魅力再発見 ～OECM(次世代型生物多様性保全区域)の視点で自然環境の保全と利用の両立を考える～		

課題の概要(背景や理由等)	<p>生物多様性条約に基づき、ポスト愛知目標として、2030年までに国土の30%を保全・保護する目標“30by30”が2021年のG7サミットで合意、2022のCOP15で議論。</p> <p>従来の保護地域に加え、それら以外の場所で生物多様性保全に貢献する場所(OECM)の認定が検討されており、(Other Effective area-based Conservation Measures:里地・里山など、生物多様性保全が主目的では内が、既存の土地利用・管理の継続により結果として、生物多様性の保全に貢献する地域)環境省では、2022年にOECMの試行認定を開始する計画。</p> <p>利用と保全の持続的な両立を図るため、豊かな生物多様性の魅力と保全の重要性に対する県民の認知度・理解度を高め、身近な自然環境の保全活動への参画を促進するとともに、景観形成、文化観光など地域資源としての魅力の発信にもつなげる必要がある。</p>
希望する調査研究内容や期待すること	里地・里山等の植生、利用・保全活動の実態、歴史・文化的な利用の推移などの文献・フィールド調査、及び調査結果のオープンデータ化
情報収集や意見交換等で連携する団体等	NPO法人ホールアース研究所(富士宮市や静岡市と連携して先進的に情報収集や調査、勉強会を開催。) 民間の森づくり、環境保全活動団体、企業緑地、寺社林等のOECM候補地域の管理権限を持つ者及び市町
ゼミ等に対して可能な支援(会議室の貸与、関連団体の紹介等)	会議室の貸与、関連団体の紹介、現地案内

既に協議や調整を行っているゼミ等があり、そのゼミ等を希望する場合に記載してください。  
(ただし、そのゼミ等が助成対象として採択されるかはわかりません)

大学		学部等	
ゼミ・団体名(担当教員)		連絡先 E-mail	

連絡先(課題内容を照会することがあります)

所属(課、係)	くらし・環境部 環境ふれあい課 自然ふれあい班
電話番号	054-221-2848
E-mail	<a href="mailto:fureai@pref.shizuoka.lg.jp">fureai@pref.shizuoka.lg.jp</a>
4年度担当者	北浦 慈基 (3年度 橋川 渉)